

生野中学校区 学校適正配置検討会議 安全対策専門部会（第4回） 開催結果

■ 開催日時、場所

令和3年8月19日（木）19時00分～ 生野区役所5階502会議室

■ 議事

通学路とその安全対策について意見交換を行った。

◆主な確認事項等

- 信号機や横断歩道の設置や時間帯通行規制について、設置等の可否とともに、否の場合は代替として何が可能かを示し検討を進める。
- 登校方法については、学校側からの「誘い合い登校」の提案に対し、学校側および保護者側双方の意見を受け、それぞれ一度持ち帰り、次回の専門部会で改めて意見交換する。

・次回の専門部会は、確認すべき事項が整理でき次第開催する。

◆主な説明事項等

【通学路の安全対策について】

（行政より、資料に沿って説明を行った）

（生野警察署より説明）

- ・昨年より教育委員会を通じて要望を聞いており、しっかり受け止めている。
- ・交通管理者として交通の安全性とともに円滑性も考えなければならないため、すべてに規制をかけるようなことはできない。そういった観点から、交通規制、時間帯通行規制の実施は難しい。ただ、理解はしている。
- ・警察庁により基準が定められており、教育委員会より説明はあったかと思う。生野区に限らず、要望すべてに対応することはできない。すべてに対応するとなると、道路が規制だらけになる。そのための基準。
- ・これまでは生野区内の状況だけで検討していたが、大阪府下全体として検討すれば見方が変わるかもしれないので、現在大阪府警本部へ相談しているところである。

【新しい登校方法について】

（学校長より説明）

- ・校長連絡会で共通理解している方法であるが、新しい登校方法について、「誘い合い登校」を考えている。
- ・通学路は決まっているため、児童の自宅、通る道、合流場所も学校側で把握している。
- ・町内会でも児童を把握されていることから声掛けもでき、誘い合い登校が可能と見込んでいる。
- ・中学生においても、小学生の通学路を通学するように指導する方向であるため、児童を見守ってくれることもあり、安心材料の1つと考える。

- ・各学校において、地域児童会というものを月1回または学期に1回行っており、1～9年生のなかでも顔つなぎができる。この機会を増やすことで、集団づくりができ、保護者の方にも安心していただけると考えている。

◆その他意見等

【通学路の安全対策について】

- ・信号設置、時間帯通行規制については、通学路全体に設置してほしいわけではない。信号設置を希望している場所では過去に事故があった。児童が通学するため、難しいでは済まされない。また、4小の児童が集まるので、今と状況が変わる。1時間の通行規制も難しいのか。

→信号設置に関しては、通行量として1時間に300台という基準があり、現時点では難しい、という回答になるが、大阪府警本部に相談している状況。

→時間帯通行規制に関しては、一部可能かもしれない。ただ、規制で守れるものにも限界がある。通学路の変更も検討してほしい。

→交通規制は、真に必要な箇所にもに実施し、数を減らす方向性である。特に時間帯通行規制は、規制のなかでも住民への負担も大きいため、慎重に判断すべきと考えている。

- ・信号設置に関して、保護者の方からは強い思いがある。もし設置ができないのであれば、最大限の安全対策をお願いしたい。

→45番への設置は難しい状況。代替案を考えたい。

- ・38番の横断歩道設置について、道路幅が足りないとのことであるが、土地買収が進み、道路幅が拡張された場合は設置してもらえるのか。

→検討はできるが、今の段階では難しい。

- ・資料にある「承諾書」の様式について、先に承諾書を集めて、この場で警察に渡すべきだったのではないかと。保護者・地域側でできることは先に動こうという話だった。

→本日この承諾書の内容をご覧いただき、了承をいただければ、連合町会長や沿道の方々へお願いにあがろうと思っている。特に児童が集まる16番は地域保護者に協力願いたい。

- ・次回の専門部会までに、警察内で対応を確認してもらいたい。それまでにできることをやりたい。時間帯通行規制の承諾書を集めた方がよいのであれば、地域に声をかけて動きたい。

→警察内での確認は約1カ月ほどかかると思うが、それまでに承諾書の件など動きたいと考えている。次回開催予定については明言できないため、改めて連絡する。

- ・自分たちは素人。どんな代替案があるのか、行政側の管轄も知らない。しかし、実施してほしいことを要望している。できないからといってゼロになるぐらいなら、少しでもできることをしてほしい。

【新しい登校方法について】

- ・千葉県で事故があった。個別より集団の方が事故にあう率が高い。低学年は周りが見えていない。高学年は自分のペースで歩いてしまう。最初はよくても、慣れてくると集団がばらけてくることもある。また、今の校区と校区の境目での不安は尽きない。歩き方、引率

の仕方も心配。学校側がどれだけ指導してくれるか。地域、大人がどれだけ参加してくれるかが心配。

→児童の発達段階に合わせて学校で繰り返し安全指導をしている。

→校区内巡視をし、指導を続けていけると考えている。

→中学生には、小学生の通学路を利用するよう指導する。新しい子どもたちが通る、その安全のためにも中学生と一緒に歩いてあげるような指導をしたい。

→学校の指導だけでなく、地域、保護者も指導に協力してほしい。

・誘い合い登校でも、結果的に保護者が見なければいけないのであれば、集団登校と変わらないのでは。逆に保護者が付き添わなくなる可能性もあるのでは。

・誘い合い登校に対する保護者の温度が違ってくるのであれば、集団登校がよいかと。

・集団登校には、集合時間に遅れないことなど時間を守ると言った教育的部分もある。

→誘い合い登校でも、学校に間に合えばよいというものではなく、安全に登校できるように家庭や地域の連携は必要と考えている。

・集団登校では班長がおり、責任問題という部分もあるが、責任感が根付くメリットはある。

・誘い合い登校では、途中でどんどん人数が増え、広がってしまう可能性がある。

→どの通学路を通るかの人数は把握しているため、指導していくことはできる。

→集団登校では、1～6年生が混在する。歩くスピードが異なるため、長距離の集団登校となれば低学年に負担がある。地域の協力も必要であるが、誘い合い登校であれば負担を軽減できる。

・舎利寺小校区の端など、最初は1人の可能性もある。保護者としては不安。どこまで大人が引率する必要があるか。そうなれば集団登校がよいのでは。

・学校選択制も西部地域に導入される。他地域の子どものみであれば住民も把握できない。

・校長先生方が、集団登校が厳しいと判断されているのであれば、誘い合い登校で中身を固めていかないと仕方ないのではないかと思う。

・校長先生方が議論した結果であり、簡単に決断したものではないと思うが、長距離になる舎利寺小校区と林寺小校区の児童が心配。

・現在の生野小学校の集団登校は、とても円滑にできている。保護者、地域から学校への引継ぎもあり、非常にやりやすい。しかし、地域、見守り隊の協力がなければ難しい。

・生野小では集団登校をする前提で話あった。誘い合いとするのであれば、生野小PTAとしては、一度持ち帰って話が必要。

→今日の話し合いで、学校側の考え方を伝え、みなさんの考え方を知ることができた。この内容を知らないPTAの方もいると思う。資料をみればみなさんが心配していることも十分わかる。今すぐどうするかというのは難しいと思う。

・今検討している内容より悪い環境になることはないのだろう。

→環境改善をすすめている。開校にあたり、登下校の荷物を減らすことを目的に、荷物を置いて帰ることができるようなロッカーの設置を考えている。